

ニュースレター

NO. 71

発 行 / NPO 法人市民活動サポートセンターいなぎ
 事務局 / 〒 206-0802 稲城市東長沼 2112-1
 稲城市地域振興プラザ 1F
 TEL 042-378-2112 FAX 042-378-6971
 E-mail : info@i-inagi-support.org
 http://www.i-inagi-support.org/

市民活動フェスタ 2022 を開催



子どもたちが生き生きと過ごせる地域を目指して

市内で活動する市民団体や地域活動に関心を持つ皆さん
が交流を深める「市民活動フェスタ 2022」を、11月 19
日 13 時から稲城市地域振興プラザで開催しました。

今回はテーマを「子どもたちが生き生きと過ごせる地域
づくり」として、子どもたちの居場所づくり活動を行って
いる市民団体から活動報告をしていただき、その後に団体
ごとにグループディスカッションのコーナーを設け、参加
者は興味を持った団体のコーナーへ行って意見交換するな
ど、参加者と団体、そして団体同士で活発に交流していく
ことを目的として開催しました。

活動報告

いなぎ FF ネットワーク 事務局長 西田 和弘さん

- ・稲城第 5 中学校ブロックの
地域を中心として 2001 年
に発足し、現在 21 年目。毎
週水曜日の 16 時～19 時半
まで、主に城山文化センター
で活動している。
- ・発足当時は稲城 5 中が荒れ
ていて、荒れる中学生たちの居場所が無ければいけな
いという思いを同じくする PTA の方々が中心となっ



【活動報告をした市民団体】

- いなぎ FF ネットワーク
- 学びナビ
- インクルーシブフォレスト
- やのくち子ども食堂・やのくちフードバンク
- いなっち（稲城父親の会）

活動を始めた。

- ・「親でも先生でもない第三者の大人との関わりを通して、
多感な思春期を乗り越える手助けをしたい」「出来る限
り子どもたちを管理しない、どんな子でもどんなニー
ズでも排除しない」という思いを持って活動している。
- ・毎週の活動は、自由におしゃべりや相談事、ゲームなど
をする「陽だまりスペース」、定期試験や受験勉強にも
対応する「学習支援」、バドミントンや卓球などで身体
を動かす「プレイルーム」を三本柱として行っている。

課題と抱負 20 年前の発足時は子どもの非行への対応が
課題だったが、近年は不登校や引きこもり、発達障害
や日本語が不自由な外国人家庭の子どもが増えており、
そのような子どもたちへの対応が課題となっている。
また、メンバーの高齢化が進み、一部のメンバーの負
担が大きくなっていることも、活動を継続していくう

えでの課題となっている。

学びナビ 代表 中河西 慎平さん

- 自身が生まれ育った稲城で子育てをしようとしたとき、コロナ禍で地域活動が止まっていたり公園で遊ぶ子が少なかつたりということに子育てする上での課題を感じ、活動を始めた。
- 活動としては、主に向陽台地区の小・中学生を対象に、月に3回、城山体験学習館で無料の学習塾を開いている。また、理科実験教室や子どもたちが出店するフリーマーケットなど、子どもがワクワクできるイベントを不定期で実施している。
- 活動資金は寄付やクラウドファンディングで賄っている。基本的には、利用者や活動に共感してくれる方の芳志で運営していきたいと考えている。
- 府中市など他地域から高校生・大学生がボランティアで参加してくれて、子どもたちの学習支援を行っている。



課題と抱負 稲城地域の高校生・大学生にも運営側に加わってほしいこと、向陽台以外の地区にも展開したいと考えている。

インクルーシブフォレスト 代表 長坂 直子さん

- 子どもが重複障害をもっており、子育ての中で不安や孤独を感じることが多く、外の世界にも目を開いて視野を広げ、学んだり自分の心をケアして、自分自身で子育てを楽にしていかなければいけないと感じた。
- 近所にある吉方公園がインクルーシブ公園として整備される計画があり、障害児の親子だけでなく不登校の子や介護をしている方など、公園を様々な人に開かれた居場所にするためにどうしたら良いか、みんなで考えたり自分の経験や思いをかかしたいと考えた。
- 吉方公園に集まって遊びながら互いに知り合える場をつくることと、障害やジェンダーなど現代社会での生きづらさを感じている人が健康に幸せになれるようにみんなで学んだり考える機会をつくりたいと思い、活動を始めた。
- 遊びと学びの両輪で、子育てする大人がまず心身ともに健康になってほしい。子どもの健全な成長を見守れる



※インクルーシブとは、障害の有無に関わらず、誰も阻害されずに、みんなで支え合うこと

大人を増やすとともに、森のように多様性を包み込んでくれる心地よい居場所をつくっていきたい。

課題と抱負 資金面や運営体制の整備などが課題であり、現在事業化、法人化に向けて学んでいる。「遊び」「学び」「心と体のケア」の三本柱で法人化を目指している。

やのくち子ども食堂・やのくちフードバンク 代表 富岡 純子さん

- 社会福祉法の改正により、稲城市社会福祉協議会（以下、社協）の主導で社会福祉法人が地域の事情に応じた社会貢献活動を行うことになり、矢野口地区では松葉保育園、ハーモニー松葉、やのくち正吉苑が共同で子どもの居場所づくりに取り組むことになった。
- コロナ禍前は、ハーモニー松葉と松葉保育園でそれぞれ月1回ずつ、子ども食堂を開いていた。子どもたちの参加は事前予約制で、ハーモニー松葉ケアハウスの利用者も加わって、一緒に食事をしたり、食事の準備や片付けをしたり、ゲームで遊ぶうちに、子どもたちと高齢者の方々が親しく交流するようになっていった。
- 現在はコロナ禍のため、お弁当を希望する子どもや高齢者の家庭へ届ける形に変え、民生児童委員や自治会、地域包括支援センターの方が配達している。配達しながら子どもたちや高齢者の様子、家庭の様子を知ることができ、つながりが維持できている。
- フードバンクは、社協を介してお米や食品の提供を受けて、毎月一回「ふらっとカフェ やのくち」で希望者に配付している。これまでに12回実施しており、継続することで毎月楽しみにして訪れる人の交流やつながりが保てている。



課題と抱負 子どもを幸せにするには、まず大人が幸せにならなければ… それには豊かな人間関係が大切であり、地域の人と人のつながりを大事にしていきたい。

いなっち（稲城父親の会） 代表 山田 誠さん

- いなっちは、市内の小・中学校、幼稚園、保育園の「親父の会」の連合体であり、各親父の会の横連携をしたり、各会の課題を共有して協力し合ったりしている。
- 「iのまち 稲城市民まつり」で毎回、子供向けに「攻略いなぎ城」という手作りのフィールドアスレチックイベントを行っており、今年も1日限りの実施で1000人以上の子どもが参加して





くれた。

- ・このほか不定期で主催イベントを実施しており、「育休パパの座談会」など子育てをテーマにしたセミナーや救命講習会、SDGs や天体観測のイベントを行ったり、児童虐待防止のオレンジリボン運動に参加するなどの活動を行っている。

課題と抱負 新規に加入するお父さんがなかなか増えないことがあり、特にコロナ禍で親父の会のイベントが行えなくなり、お父さんたちが参加するキッカケづくりが難しくなっている。また、メンバーの高齢化も懸念される。

グループディスカッション発表

FF ネットワーク グループ

- ・子どもの居場所づくりの活動が、広く市内の他地区でも行われると良い。
- ・近隣地区で同じようなテーマで活動している団体とコラボレーションできたら良い。
- ・不登校や引きこもりの子に対して、多様な選択肢を与えてあげることと、心安らげる場所をつくってあげることが大事。そういう場所がたくさんあると良いと思う。

学びナビ グループ

- ・学びナビはビジネスとして社会課題の解決に取り組む点が他にない特徴である。
- ・以前は市民活動は非営利で行うものとされていたが、今では市民活動にも営利的な要素を取り入れていかないと地域活動自体が衰退しかねない。
- ・不登校の子をサポートする団体が稲城にも必要だが、そのための場所と運営資金（人件費）の確保などが課題である。

インクルーシブフォレスト グループ

- ・かつては障害のある子でも遊びながら交流したり地域に居場所があったが、現代は福祉サービスが充実した代わりに地域でお互いを知る機会が無くなってしまった。行政の福祉サービスにつながることが安心ではなく、地域コミュニティの中で人々とつながることで安心して子育てできるのではないか。

- ・障害児の親のケアも大事であり、行政では難しい夫婦支援を行うピアサポート（同じ苦しさや生きづらさを抱える人同士が互いに支え合うこと）を行っていきたい。
- ・人にはそれぞれ得手不得手があり、それが一人一人の「違い」になっている。それぞれの「違い」を個性や長所として肯定する視線をみんなが共有できれば、生きやすさにつながっていくと思う。

やのくち子ども食堂 グループ

- ・矢野口地区以外にも子ども食堂へのニーズはあると思うので、情報交換やニーズ調査が必要ではないか。
- ・若い世代は仕事などで子ども食堂などへの参加は難しいが、コロナ禍で孤独や孤立を深めている大学生などもいるので、多世代交流としてそのような若者の参加につなげていけるような取組みができたら良い。
- ・若い男性も活動に参加してほしいという話を聞いて、仲間にも呼び掛けていきたいと思った。

いなっち グループ

- ・親父の会と PTA の違いについて、親父の会は活動したい人が自発的に集まって自由にやっている点が違うのではないか。
- ・親父たちの活動は、家庭と仕事、親父会のバランスをとることが大切。若いお父さんは仕事と家庭のバランスをうまくとっている人が多いが、地域活動に参加する工うまでの時間的余裕がない。いかにメンバーを増やすかが課題である。
- ・市内で同じテーマやミッションで活動する団体を横串でさすような団体をつくれば、地域を越えて連携できるのではないか。その意味で「いなっち」は、一つのロールモデルになれると思う。



最後に、市民活動サポートセンターいなぎの角田亨理事長が「今日の成果の一つとして、子育てや子どもをキーワードに活動する団体のネットワーク構築に当センターも協力して、このフェスタが一つのスタートになるよう積み上げていきたい」と締めくくり、市民活動フェスタ 2022 は盛況のうちに幕を下ろしました。

(文責：種田匡延)

大丸用水沿いを歩く～東長沼・押立コース～ 稻城の魅力発信事業を行いました

日 時：令和4年12月3日（土）午前9時～11時30分

コース：稻城長沼駅～ガンダム像～菅堀～葎草橋～稻城大橋～津島神社～
押立堀公園～アカシア林～矢野口駅

師走の曇り空の下、今回は稻城長沼から押立にかけての大丸用水を歩き、沼地から田んぼへ、そして梨畠から現在の住宅地へと変化してきた街並みをみんなで一緒に歩きながら、稻城の新たな魅力を発見しました。

当日は18名の参加をいただき、まずは稻城長沼駅高架下のペアテラス前のガンダム等のモニュメントを見学しました。一行は押立にかけて用水の流れを辿って歩き、江戸時代に押立村と長沼村が共同で造った石橋が今も残る「葎草橋」（稻城で最初の石橋）や、水量の取り分のことで地域間で争いになったことが由来でその名前が付いた「喧嘩口」、稻城大橋通りの上を用水が横断する管渠などを見ながら歩きました。

その後、押立の住宅地へ歩いて、市民の手づくりでできた公園で市民協働の原点とも言われる「押立堀公園」など押立方面の名所を歩き、最後にアカシア林を抜けて矢野口駅に到着、解散となりました。

短い時間でしたが見どころ満載のイベントに、参加された皆さんも満足していました。



フォスター・シティ市民が来日、交流を行いました！ 稻城市姉妹友好都市交流協会



令和4年10月22・23日の2日間、稻城市的姉妹都市であるアメリカ合衆国フォスター・シティ市から「第21回 I のまち いなぎ市民まつり」に合わせて33名の訪問団が来日され、稻城市姉妹友好都市交流協会の主催で2日間にわたり様々な交流事業を行いました。

「I のまち いなぎ市民まつり」会場では、2日間にわたり各団体や事業者の出店テントを巡ったり、稻城市弓道連盟の活動等を見学、お茶会にも出席されました。特に、2日目の「100人太鼓」には皆さん興味津々の様子でした。

初日の晩はホテル日航立川で、市内関係団体や市長はじめ行政関係者が出席して歓迎会を開きました。稻城市舞踊連盟による日本舞踊、希望者全員で踊った稻城繁盛節、市長や協会理事らが自慢のノドを披露するなど、余興も席での会話も大いに盛り上がりました。

2日目は、市内視察後に市民交流会を行いました。

交流会はプレゼント交換会と市民によるパフォーマンス発表会の二部構成で、プレゼント交換会では安東会長、高橋市長とフォスター・シティ市で、名物のお菓子や記念品などが交換されました。

パフォーマンス発表会では、市内小中高生による稻城市的英語プレゼンテーション、市内女性コーラスグループによる歌唱、駒沢学園女子中学高等学校書道部による書道パフォーマンスが行われました。コーラスでは訪問団も一緒に盛り上がり、児童・生徒のパフォーマンスは訪問団の中の教育関係者に大好評でした。

交流事業はフォスター・シティの皆さんにも大変喜んでいただき、文化や言葉の壁を越えた楽しい交流をすることができました。令和5年2月には稻城市からフォスター・シティ市への訪問も控えています。その際にも更に素敵な交流が行われることでしょう！